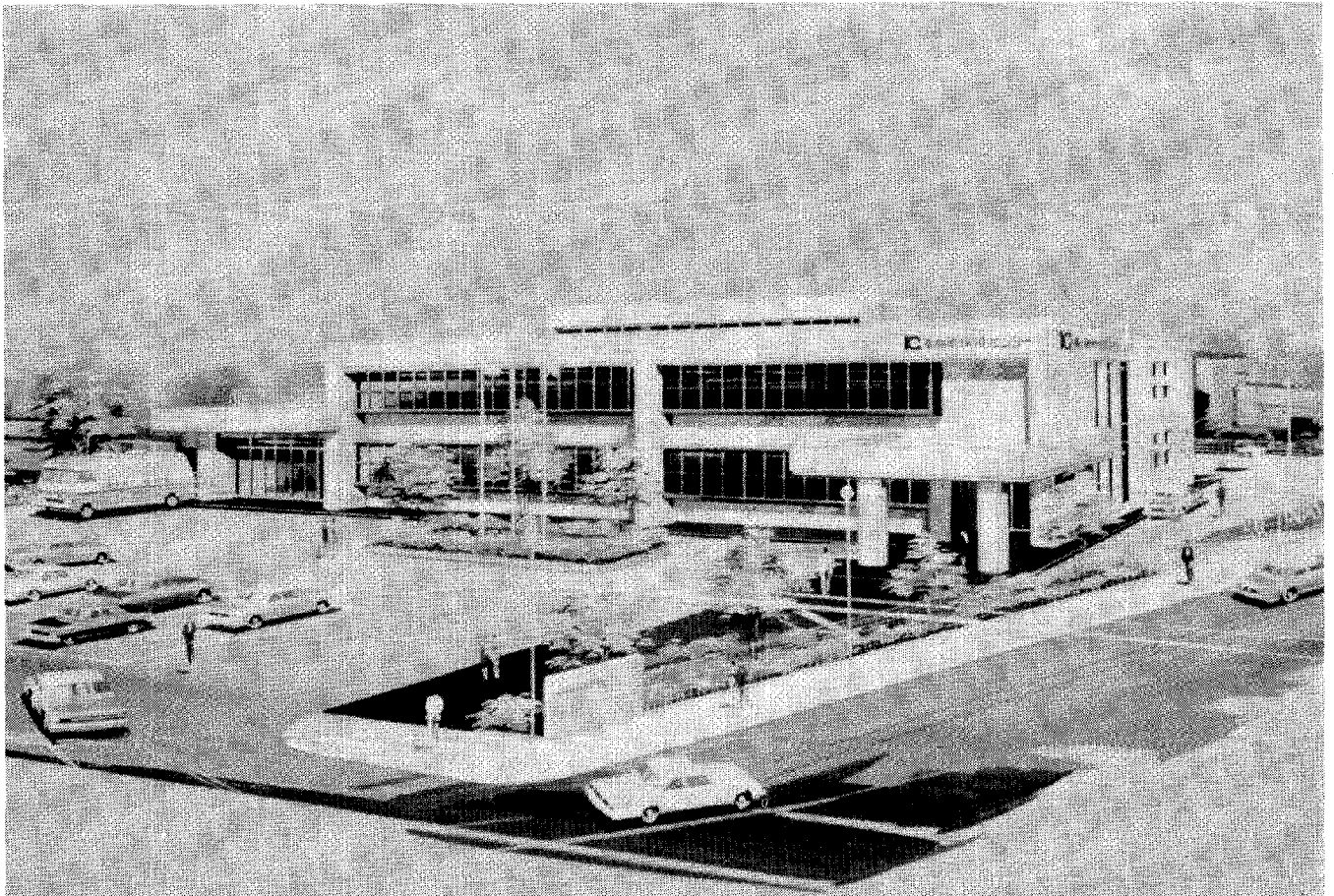


広報 こらた '84 4

臨時号

施政方針

発行・幸田町役場 愛知県額田郡幸田町大字菱池字黒方11番地
編集・企画課 ☎ 2-1111 (代)2458 印刷・あいち印刷



▲ 保健センター構想図

幸田町民憲章

わたくしたちは、心ゆたかな住みよいまちづくりをめざし、ここに町民憲章を定めます。

一、緑豊かに、水清らかに、みんなで美しいまちをつくりましょう。

一、ありがとう、いつも笑顔で親切の輪を広げましょう。

一、活気と希望と夢にみちた、若い力を育てましょう。

一、スポーツに親しみ、心身を鍛え、健康なまちをつくりましょう。

一、豊かな知識と教養を高め、文化の向上に努めましょう。

昭和五十七年一月十四日制定

昭和59年度当初予算の概要

合併30周年を契機に

さらに活力に富んだ
心豊かな住みよい幸田へ

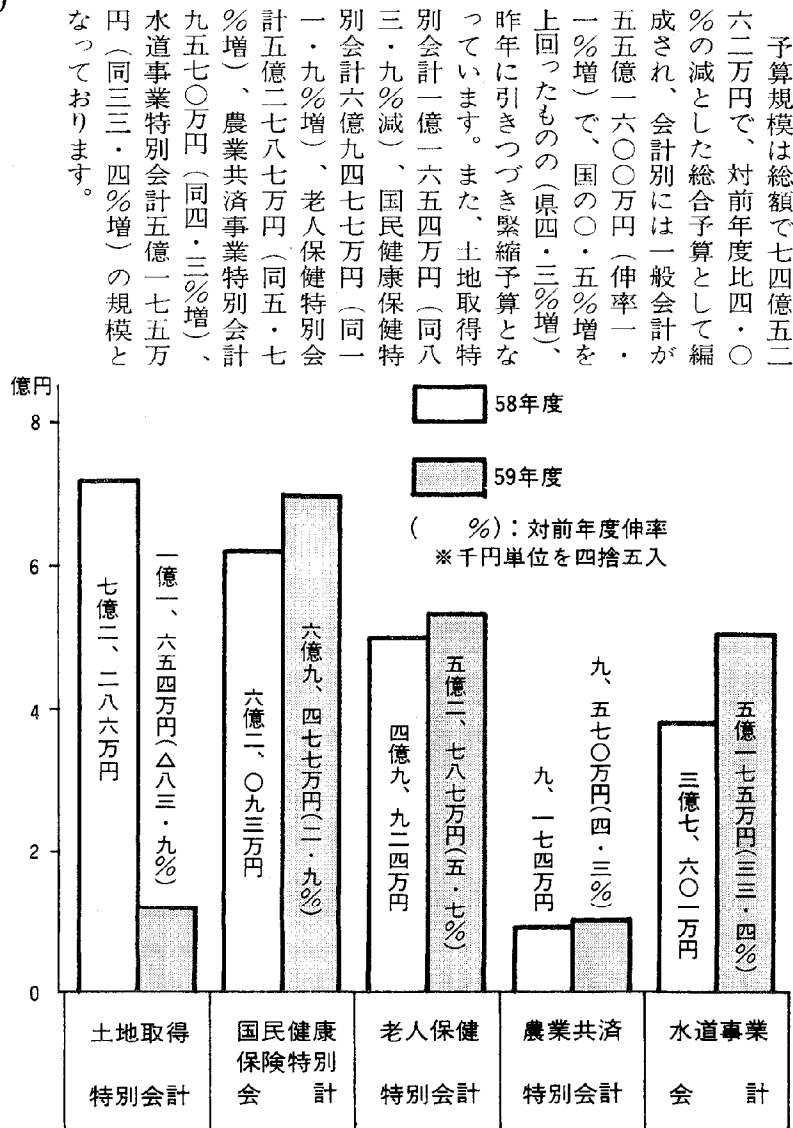
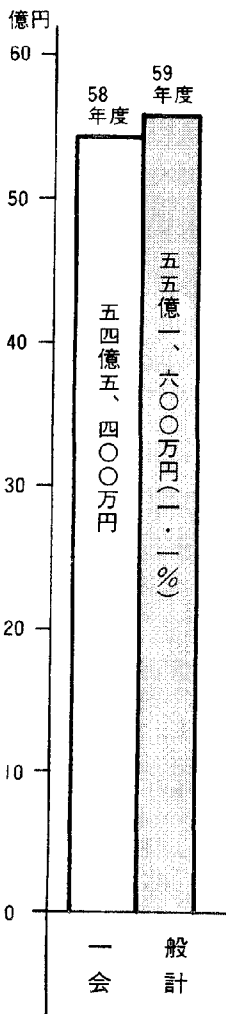
総額 74億5,262万円

一般会計

55億1,600万円(1.1%増)

会計別予算額

(前年度比較)



昭和五十九年第一回幸田町定例町議会は、三月九日に招集され会期を三月二十三日までの十五日間と定めたあと、昭和五十九年度幸田町一般会計予算を含む、総額七十四億五二六二万円の予算など、二十六の議案が慎重に審議され、可決されました。

昭和二十九年八月に旧豊坂村と幸田町が合併して三十年目に当る本年度当初予算は、内外の情勢とともに、発展への節目にもあたることから基盤整備を中心に計画性を重点に将来の投資効果を尊重し、慎重に編成されました。

予算規模は総額で七十四億五二六二万円で、対前年度比四・〇%の減とした総合予算として編成され、会計別には一般会計が五五億一六〇〇万円(伸率一・一%増)で、国の〇・五%増を上回ったもの(県四・三%増)、昨年に引きつづき緊縮予算となつていきます。また、土地取得特別会計一億一六五四万円(同八三・九%減)、国民健康保健特別会計六億九四七七万円(同一・九%増)、老人保健特別会計五億二七八七万円(同五・七%増)、農業共済事業特別会計九五七〇万円(同四・三%増)、水道事業特別会計五億一七五五万円(同三・四%増)の規模となつております。

性質別内訳

区分	予算額	構成比	対前年度伸率
	万円	%	%
人件費	107,381	19.5	3.1
物件費	51,572	9.3	10.3
維持補修費	6,118	1.1	55.4
扶助費	11,540	2.1	3.6
補助費等	47,735	8.7	△9.2
投資及び出資	0	0.0	0.0
貸付金	4,401	0.8	18.9
積立金	1,150	0.2	4.5
公債費	46,339	8.4	9.4
繰出金	13,483	2.4	3.5
普通建設事業	258,818	46.9	2.1
災害復旧事業	1,063	0.2	△90.4
予備費	2,000	0.4	0.0
合計	551,600	100.0	1.1

一般会計概要

昭和五十九年度一般会計予算の規模は五五億一六〇〇万円で、前年度比、一・一％の増であり、庁舎建設をはじめ保健センター等大型事業を取り入れてあり、昨年度の庁舎建設事業分、都市公園用地、幸中運動場用地購入費及び特別教室棟建設事業費と相殺し、引き続き緊縮予算の編成に努めました。

歳入については、町税の伸びは固定資産税に主因し二四億六二六七万円、前年度比一一・六％増程度とし、使用料手数料等については、国の基準、他団体

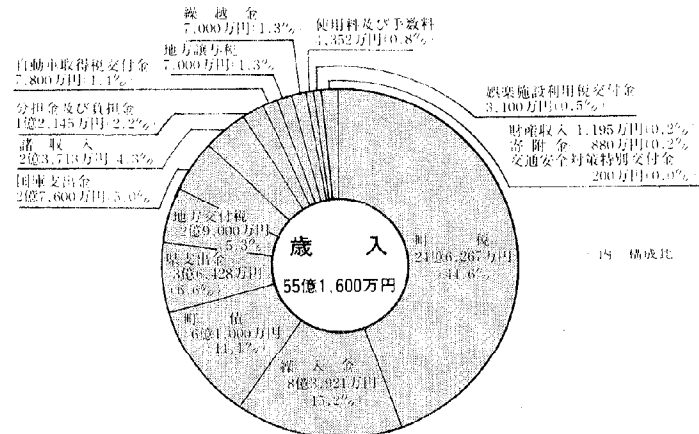
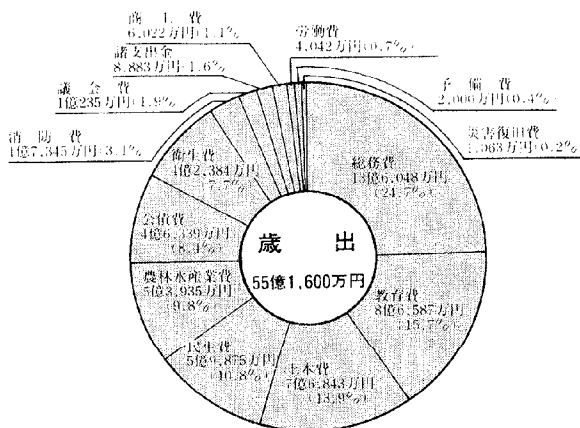
との均衡、収支バランス、受益費負担の原則等を考慮し、若干調整され、また寄附金については制度改正を含め、大幅軽減に努めております。

国県支出金については、約六億四〇〇〇万円で前年度比約二億八百万円の減となっておりますが、昨年の中学校建設、筆桶選果場、五十七年度災害関係によるものであり、本年度の内訳としては保健センター建設四五一六万円、農村集落排水事業一八七五万円、深溝小学校体育館三二四〇万円、南中武道館八六

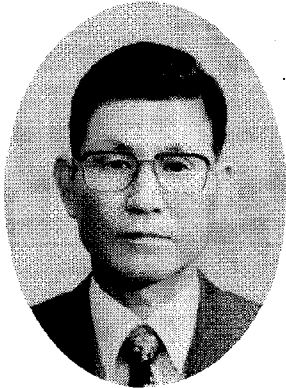
三万円等であります。

町債については、本年度から工事に入る庁舎に二億八七〇〇万円を予定するのを始めとし、保健センター建設に一億一七〇〇万円、体育館・武道館建設に一億五〇四〇万円等、合計六億一〇〇〇万円を予定し、これら大型建設事業に要する繰入金は財政調整基金五億円、庁舎建設基金三億円、土地開発基金三九二〇万円としました。

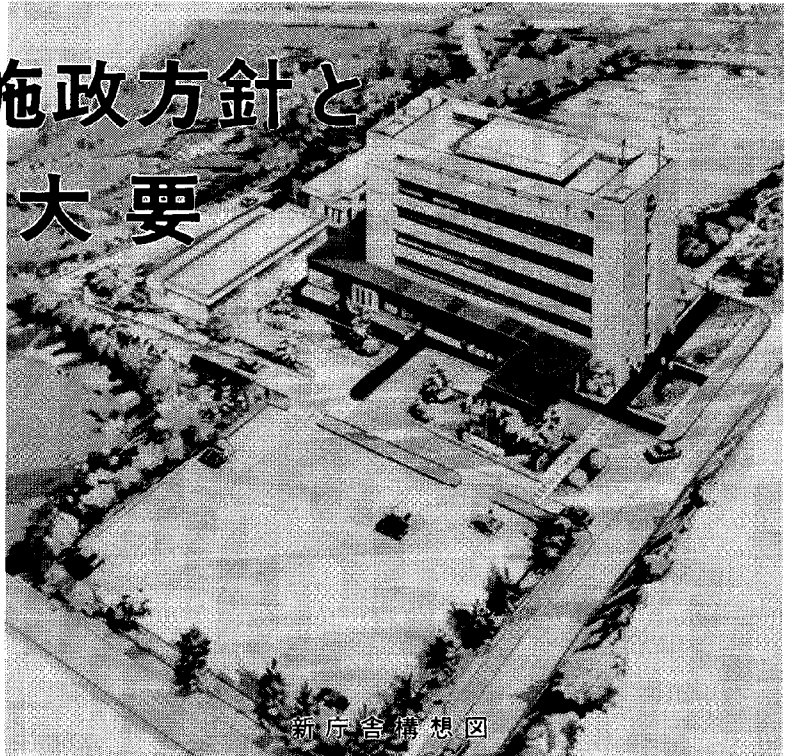
一方歳出については、具体的には町長の「施政方針と予算の大意」にありますが、例年にも増し大型建設事業を含め、一層の効率化、合理化をもとに、教育施設及び生活基盤の整備を重点施策として編成しました。



昭和59年度 施政方針と 予算の大要



幸田町長 磯部光雄



人間と自然と産業

調和のとれた町づくりに

町民参加のもと英知を

結集

わがふるさと幸田町は、昭和二十九年八月一日に額田郡幸田町と幡豆郡豊坂村と合併し、新生幸田町が誕生して以来、本年は三十周年を迎えました。

私は、この三十年間に亘り、歴代町長を始め議員の皆さん、そして諸先輩が、町民とともに心血を注ぎ、幾多の困難を克服して、町政の発展に尽くされた功績に対し、心から敬意と感謝を申し上げるとともに、心を新たにし、謙虚に皆さんの御意見御指導のもと、町民とともに手を携えて町勢の一層の発展のために、全力を傾注する覚悟であります。

さて、昭和五十八年度を振り返りますとき、まず第一に、幸田町が昭和三十四年以来町を挙げて誘致を推進してまいりました新幹線新駅の候補地が、一月五日安城市二本木町地内に県に

おいて決定されたことであります。一万三、七〇〇名余の署名と、町議会や町民会議、さらには蒲郡市と一体となって全力を挙げてまいりましたが、アクセス、利用客数、地理的、地形的条件、建設費、駅間距離等総合的に検討された結果ではありませんが、幸田町にとり誠に残念な

ことであり、町民の御期待御協力にお応えできず、しかも各方面に多大な御迷惑をお掛け致したことについて、この機会に幾重にも深くお詫び申し上げる次第であります。

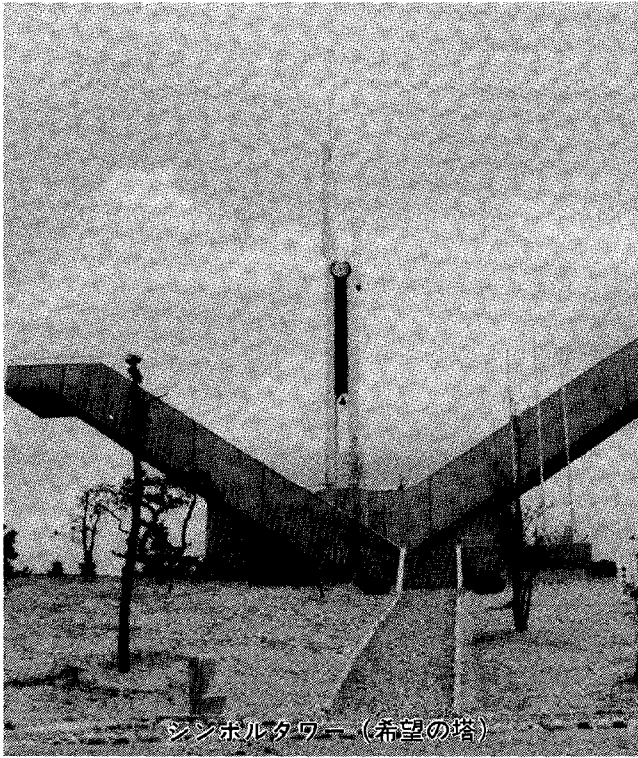
この上は、本件について町民が一丸となって内外に示した幸田町の意気とそのエネルギーを、改訂の時期にきております幸田町新総合計画に結集し、明日の幸田町発展に資したいと考えております。

一方その外の事業については、

幸田中学校特別教室棟、南部中学校プール、中央小学校増築、深溝・荻谷小学校校庭の拡張等義務教育施設の整備、市場公民館の完成、また、役場新庁舎も設計に取りかかり、さらに区画整理事業も四地区で推進をみ、農業振興面においても、幸田町特産の筆柿選果場が完成の運びであり、年とともに発展する幸田町のまちづくりの基盤がさらに前進できましたことは、議会を始めとする町民の皆さんの御理解御協力の賜物と感謝申し上げます。

幸田町の人口は、今二七、三〇〇人を超え、毎年概ね六〇〇人の人口が増加しております。それゆえに新旧の住民がより心のふれあいを高めながら、よき風習、伝統を發展させ、お互い忘れがちな人間本来の助け合い、いたわり合いを日常生活に生かし、健康で明るい家庭と地域づくりを進めることが大切であると思っております。

町勢発展に伴う義務教育施設、体育文化施設の建設推進と、住みよい町づくりのための下水路、市街化区域の区画整理、農業振興と併せた村づくりのための土地基盤整備の推進等、社会資本の充実が急務であり、併せて新庁舎の建設等、財政需要は非常



シンボルタワー (希望の塔)

に巨額なものがありませんが、終戦後三十八年を経た今日、わが国を取りまく内外の環境や潮流は大きな転換期を迎え、また二十一世紀という日本の未来を開くための挑戦と準備の時期にあり、そのため国の行政改革、財政改革が推進されており、国県における緊縮予算や経済界の動向は、年とともに当町の行財政にも大きな影響を与えつつあります。地方自治の本旨をもち、総合計画に基づき計画的に事業の推進を図ってまいりたいと思っております。即ち、永年の懸案であります役場庁舎の新築着工、教育施設基本計画に基づく

小学校体育館の建設、健康を守るための保健センター、駅西區画整理、坂崎、大草県営圃場整備の着手、さらに活力ある幸田の町づくりのため、中部工業団地の推進等、例年以上に大型事業に取り組みするため、誠に厳しい財政運営となりましたが、町民憲章のもと、町民の総意を結集し、新町三十周年を契機に「さらに活力に富んだ心豊かな住みよいふるさと幸田」の町づくりのため、町民参加のもと英知を結集して「人間と自然と産業の調和」のとれた町勢の発展を、積極的に推進致す覚悟であります。

予算編成方針と

その概要



幸田中学特別教室

さて、昭和五十九年度の予算編成にあたっては、前記の考えを踏まえながら、昭和五十八年二月二十四日付幸田町行財政改善調査会の答申を尊重し、その趣旨を極力活かし、総合計画実施計画、五十八年度中の議会質問、各種団体等の要望を十分検

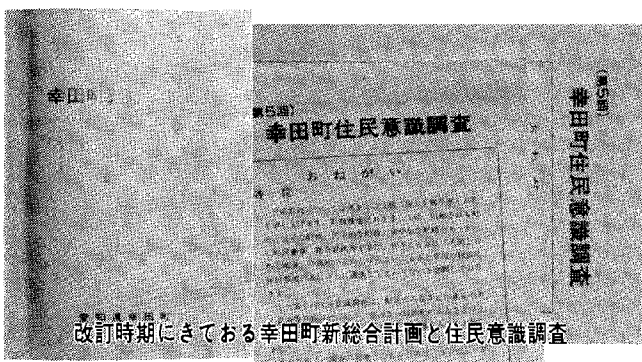
討し、町政全般の均衡ある発展と福祉向上に全力をあげるよう編成したつもりであります。

昭和五十九年度の予算規模は、一般会計五億一、六〇〇万円、前年度に比べ一・一%の増であり、庁舎建設をはじめ保健センター等大型事業を取り入れてあり、昨年度の庁舎建設事業分、都市公園用地、幸中運動場の買戻し及び特別教室棟建設事業費を相殺し、引き続き緊縮予算の編成に努めました。

また、特別会計では、土地取得特別会計一億一、六五四万円、前年比八三・九%の減であります。国民健康保険特別会計は、国において流動的であるため、現行制度で編成致しましたが、医療費の上昇に伴い、六億九、四七七万円、前年比一一・九%の伸びであります。老人保健特別会計は、施行以来三年目を迎えますが、五億二、七八七万円

で前年比五・七%の増であり、農業共済事業特別会計は、九、五七〇万円の四・三%増となりました。水道事業会計は、五億一七五万円で三三・四%の増と大幅な伸びを見込みましたが、これは大草水源の整備約四、八〇〇万円、里の区画整理地内配水管整備、布設替等で約五、八〇〇万円を必要とするものであります。また、一般会計からの繰入れは、二、〇〇〇万円とし、水道料金体系の一部変更を予定するものであります。

これら、一般会計と特別会計と合わせ、総額では七億四、二六二万円であります。



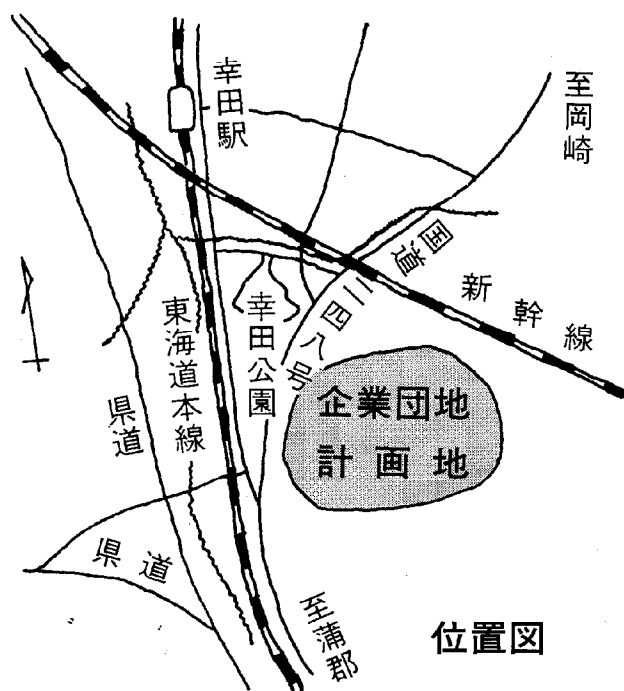
改訂時期にきてある幸田町新総合計画と住民意識調査

歳入

ここで一般会計予算を中心にその概要を申し上げますと、まず歳入については、町税の伸びは、固定資産税の伸びに主因し、二四億六、二六七万円、前年度比一一・六％程度の伸びとし、その他地方交付税、地方譲与税等の一般財源は概ね前年度並で合計三五億九、五〇〇万円、全体の六五・二％となっております。また、使用料、手数料については、他団体等との均衡、収支のバランス、受益者負担の原則として若干調整をさせていただいております。保育料については、極力保護者負担の抑制に努めました。運営費増高のため二・三％増の負担をお願いすることに致しました。小中学校給食費についても今後材料の値上りが予想されますが、今回は現行賄費を据え置くことに致しました。寄附金については、制度改正を含め一、三五五万円より八八〇万円と極力軽減に努めました。

次に国庫支出金については、約六億四、〇〇〇万円の前年度比約二億八〇〇万円の減となっておりますが、これは前年の中学校建設関係約一億一、七一一万円、筆柿選果場七、五六二万円、災害復旧関係八、五三三万円等が減つたためであります。本年の内訳としましては、保健センター建設関係四、五一六万円、農村集落排水事業一、八七五万円、深溝小学校体育館三、一四〇万円、南中武道館八六三万円等であり、国庫支出金等依存財源は、全体の三一・二％であります。特に補助金については、その受け入れ体制を整え、計画的に導入し、鋭意採

取に努めたいと考えますので、関係者の一層の御理解を改めて切望するものであります。町債については、本年度から工事に入る庁舎に二億八、七〇〇万円を予定するのを始めとし、保健センター建設に一億一、七〇〇万円、体育館、武道館建設に一億五、〇四〇万円等、合計六億一、〇〇〇万円を予定致しました。繰入金については、前記事業のため財政調整基金五億円、庁舎建設基金三億円、土地開発基金三、九二〇万円を繰り入れることと致しました。



歳出

一方歳出については、一般会計五億一、六〇〇万円の内、義務的経費である人件費、扶助費、公債費は、合計一六億五、二五九万円で歳出総額の三〇・〇％、投資的経費は計二五億九八八一万円（同四七・一％）、補助金等は、四億七、七三三万円（同八・七％）であります。このうち三億三、五五五万円は建設事業関係予算であります。また、目的別には、総務費一三億六、〇四八万円で、庁舎建設に關係して五七・五％の伸びを示しました。民生費は、五億九八七五万円で前年比七％増であります。衛生費は、町民の健康管理の拠点である保健センター建設事業二億一、八三〇万円を含め、総額四億二、三八四万円（同一〇〇％増）、労働費は四、〇四二万円（同二七・六％増）であり、勤労者融資預託金を三〇〇万円増加致しました。農林水産事業費は、五億三、九三五万円（同三・四％減）であり、筆柿選果場、果園圃場等、集落排水事業、果園圃場整

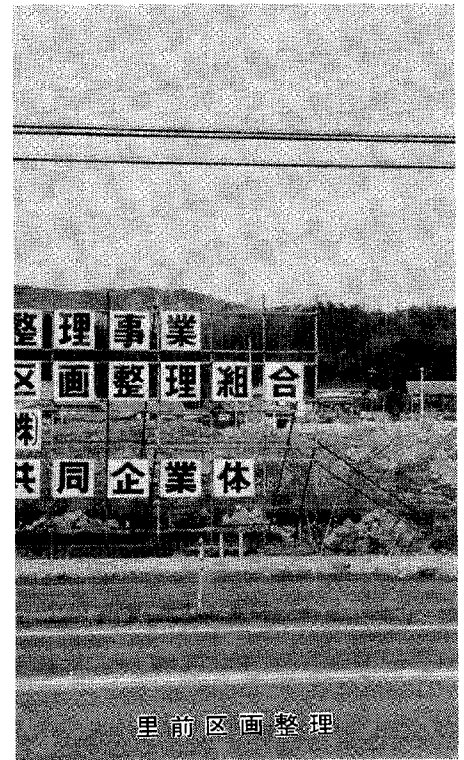


備事業等の基盤整備等を新規に計上したためであります。教育費は、八億六、五八七万円（同三一・八％減）であり、本年は体育館一億四、九五〇万円、武道館一億四、七六〇万円等を計上致しました。計数的なものには別に示してありますが、これら五十九年度の予算の執行にあたっては、将来を考えた地域振興と、町民福祉を目指して、一層の効率化、合理化を図っていく所存であります。

重 点 施 策

庁舎建設と将来を展望し 教育施設、生活基盤の整備に 全 力 傾 注

昭和五十九年度における施策は、やがて制定されるであろう二十一世紀を展望した第三次総合計画を想い、庁舎建設、圃場整備、区画整理、義務教育施設、保健施設等を始めとする、都市産業、文化、衛生面における基盤の整備が、近時の本町の取るべく施策としては急務と考え、また折りしも町村合併三十周年という年に当たり、地域の発展、人口の増加等進境著しい年を迎え、なおさらその感を深めるものであります。従いまして、これら将来への転換期に直而して、いる本町の予算編成は、これからのまちづくりの一步として非常に重要な面を持ち合わせているだけに、町民とともに後退のない効率的な豊かなまちづくりに着実に前進できるよう、次の施策を重点に編成致しました。



一、人間性豊かなまちづくり

教育施設、社会教育活動、コミュニティ、都市公園整備

二、健やかなまちづくり

スポーツ振興、保健センター、予防医療の充実

三、心の通った福祉

老人、母子、障害者、児童福祉の充実

四、緑を大切に安全で災害に強いまちづくり

緑化、交通安全、環境整備

五、豊かで活力のあるまちづくり

農業基盤整備、産業振興、企業団地の造成

六、新しい計画的なまちづくり

区画整理、街路、下水路の整備

七、広域行政の推進

広田川の改修、名豊、衣浦蒲郡線、流域下水道整備の促進

八、合併三十周年を記念して

議会史、庁舎建設



幸田町民憲章

わたくしたちは、心ゆたかな住みよ
いまちづくりをめざし、ここに町民憲
章を定めます。

一、緑豊かに、水清らかに、みんな
で美しいまちをつくりましょう。

一、ありがとう、いつも笑顔で親切の
輪を広げましょう。

一、活気と希望と夢にみちた、若い力
を育てましょう。

一、スポーツに親しみ、心身を鍛え、
健康なまちをつくりましょう。

一、豊かな知識と教養を高め、文化の
向上に努めましょう。

人間性豊かなまちづくり

教育施設、社会教育活動、

コミュニティー、都市公園整備

まず第一の人間性豊かなまちづくりのための教育施設の整備については、南部中学校武道館一億四、七六〇万円、債務負担を行っている中央小学校の増築二、九〇〇万円、毎年一校整備計画による深溝小学校の体育館一億四、九五〇万円を計上し、

次の世代が、安全で快適な環境のもとで勉学に励むことのできるように逐次施行するものであります。

また、希望の塔を擁する幸田公園においては、さらに住民の健康と文化の向上を期し、その整備費に一、〇〇〇万円を継続

するもので、他の公園、住民広場等と合わせ、憩いの場とコミュニティーの拠点として十分な活用を望むものであります。特に最近においては、各地区の公民館等において工夫し、個性ある諸活動が活発に行われるようになりましたが、これらの自主活動の醸成を一層推進するため、本年はコミュニティー推進費を八〇〇万円計上し、またライフサークル運動も一層充実させてまいりたいと考えます。

健やかなまちづくり

スポーツ振興、保健センター、

予防医療の充実

第二は健やかなまちづくりのための施策であります。新年度も日に日に暖かさを取りもどす今日この頃、あたかも啓蟄のごときスポーツマンが動き出してきました。近年、コミュニティー活動と相まって、年毎にスポーツは地区、職場に定着し、各施設を活用し、健康管理に各自が意を払っておられることは誠にほほえましい限りであります。施設面の一層の充実を図るため、

新たな総合運動場の建設の計画に取り組んでいきたいと考えております。町の主催する町民運動会、新春マラソン大会、親子で参加できる歩け歩け運動等、三十周年を契機にさらに盛り上げ、一層健康な身体と精神づくりのため心を馳せているところであります。

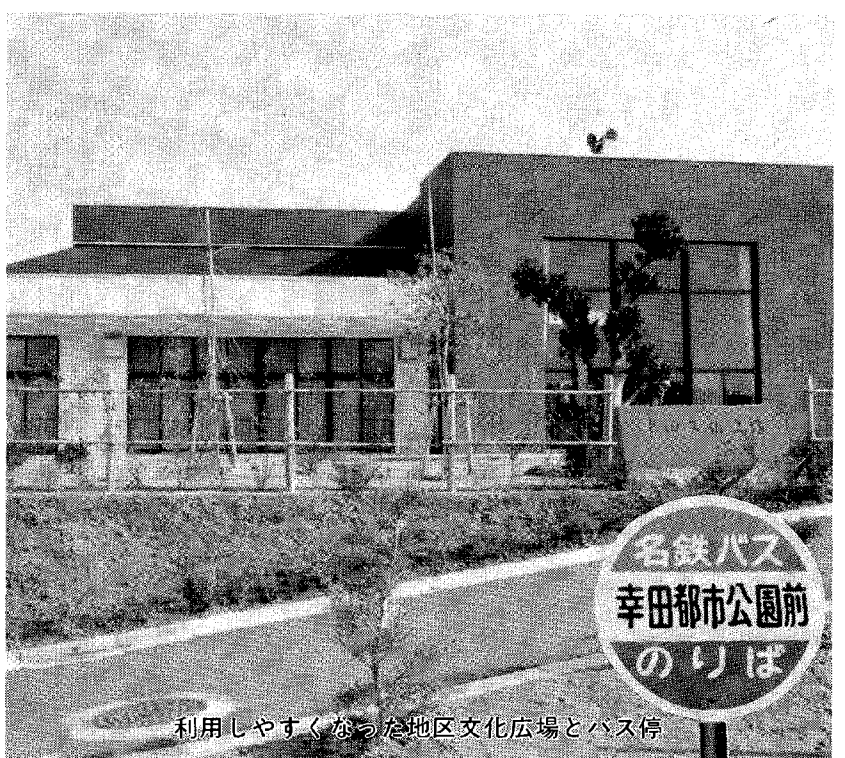
次に健康づくりの推進については、予防対策費二、八四七万円を計上し、老人保健事業、成

人病検診、ガン検診の一層の充実を図り、また、わが国は高齢化が急速に進行し、社会の複雑化に伴い、成人病予防対策は非常に大切なことでありますので、町と致しましては、保健事業を総合的に推進する拠点としての保健センターを二億一、八三〇万円で予算計上し、保健センターを中心とした予防医療、食生活、健康管理等、町を挙げた体制整備を図り、町民の健康づく

りに全力を挙げたいと思っております。救急医療対策として二、二八三万円を計上し、また母子センターを軸として、母子の健康管理診断等七〇四万円、環境衛生、公害対策について八六九万円、その他快適な生活環境のバロメーターともなる河川水質検査を始め、市街地における雑草対策等公害の未然防止にも意を払うものであります。



歩け歩け運動



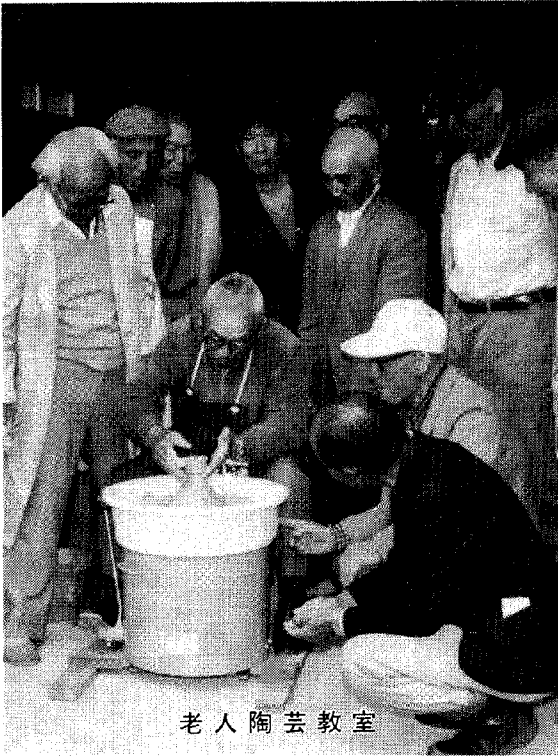
利用しやすくなった地区文化広場とバス停

心の通った福祉

老人、母子、障害者、

児童福祉の充実

第三は、心の通ったきめ細かな福祉であります。現下、六十歳以上の高齢者人口は、二、二〇二人で、全町民の八・四％であり、これらの方々が健康で生きがいのある生活を送られるためには、町民が老人を敬い、大切にする気風を育てるとともに、老人福祉センターを中心とした健康管理、陶芸、演芸等の趣味、実益をも推進する生きがい対策費は、高齢者能力活用推進事業の一層の充実を図り、高齢者の永年の経験を生かし、社にも引き続き貢献していただくための予算を含め、九八一万円を計上しました。外に老人福祉対策として、老人医療扶助費一、七六五万円を含む老人保健事業四、二八三万円を計上し、また、身障者の扶助、活動の推進のための諸施策二、九一三万円、母子、寡婦の方々のための施策として一、二二八万円を計



老人陶芸教室

上し、谷間のない社会福祉に細心の注意を払って編成し、総額で一億九、二六八万円と責務的に編成したつもりであります。

一方児童福祉については、乳児保育、延長保育については、過去三年の経験をもとに一層充実させていきたいと考えておりますが、保育料については、国の基準、近隣団体との均衡を考慮し、二人以上入所者の半額徴収措置を全階層に適用し、低所得者階層を据え置く等、十分検討を加えましたが、平均で二・三％増の負担をお願いすることと致しました。これら保育園運営事業を始め、児童館、ちびっこ広場、住民広場等の施策を引き

続き充実させ、子ども会活動に對しては、子ども会の果たす役割、必要性は、今日非常に大きな意義がありますので、子どもの育成にはさらに積極的に取り組み、自主的活動を基調として、仲間づくりと、責任感、協調性を育て、少年時代のよき思い出となる活動、情操を育てる推進費一四七万円を始めとして、児童福祉費は総額四億五九九万円、前年比一、九一七万円の増額とし、次代を担う子供たちの健全な情操を、親子そろって育てあげることが、昨今の社会問題対策の源となるものと考えております。

緑を大切に

安全で災害に強いまちづくり

緑化、交通安全、

第四は、緑を大切に安全で災害に強いまちづくりであります。恵まれた本町の自然を大切に、町民参加で河川の美化、道路をきれいに、公共施設を大切に、ごみと雑草の少ない町と自家菜園と水田裏作を奨励し、緑の美しい環境衛生の行きとどいた町づくりを目指し、このため緑化

環境整備

推進事業五〇一万円、造林事業五七二万円、河川水質検査二四六万円、ごみ、し尿処理対策事業等、廃品回収補助とも合わせ八、七七九万円、下水路整備事業の継続四本を含め、計八本の九、六六三万円、一般道路改良として継続五本、新規六本の一億三、〇六二万円、生活道路側



河川美化作業

溝、舗装は五、〇〇〇万円、市街化区域内の道路整備七本、六、〇三〇万円で、生活環境の整備に努力するものであります。また、通学路の整備については、昨年からの継続で、南部中学校への上六栗一号線を主体として倍額の六、二四〇万円を計上しましたが、いずれも用地を伴うものであり、関係者の協力を特別にお願いするものであります。橋梁にあっては、県河川改修工事と関連し、三橋二、二六五万円また、河川工作物関連応急対策事業として前後十mの護岸設置工事負担金一、九八〇万円を



果選センター

計上し、既橋梁による河川堤防の安全を図るものであり、さらに継続の足後川を始め、三河川の改修を六、五〇〇万円を実施致し、広田川を始めとする県管理河川の改修は、強ちに県に働きかけ災害に強いまちづくりを進めたいと思います。

農林水産業関係では、湛水防除事業一億円、老朽ため池事業二地区三、五〇〇万円、緊急農地防災事業二地区四、一〇〇万円と、防災面についてさらに継続してまいります。

なお、災害、火災から町民の生命と財産を守るため、消防力の充実と地域防災組織の一層の整備を推進するため、総額一億

豊かで活力あるまちづくり

農業基盤整備、産業振興、

七、三四五万円とし、昨年比五・一%の増額と致し、防火水槽五基、消火栓四基等整備を図っていくものであり、また新規事業として大規模な災害に備え、情報 の早期伝達体制を整えるために四〇〇万円を計上し、防災行政無線の設計を致したいと考えます。

一方、交通安全対策、防犯活動として、各種団体にあってはその献身的な活動には幾重にも感謝致すところでありますが、コミュニティ活動、社会教育活動、児童福祉事業、道路等の施設整備とは別にそれぞれ五〇九万円、三一九万円を計上し、町民一丸となって事故や犯罪のない町づくりに真剣に取り組んでいきたいと思っております。

企業団体の造成

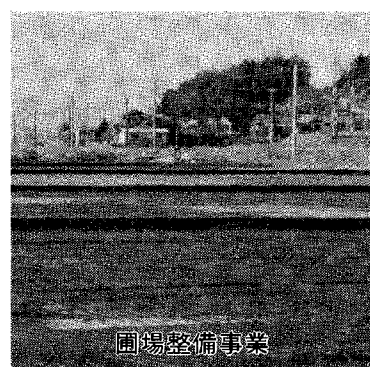
第五は、豊かさや活力を求め

を実施し、その他矢作南部農地

る施策であります。わが国の経済を取りまく情勢は依然として厳しいものがあり、本町の立地条件から農業の使命は、古今とも非常に公益的かつ重要なものがあります。時代に対応した生産性をあげ、所得の安定、生きがいのある農業のためには、土地の基盤整備は欠かすことができません。本年度から着手予定の県営圃場整備(坂崎、大草地区)一三・〇haを始め、農村総合整備モデル事業による圃場整備二か所一〇・一ha、単独四・〇ha、合わせて五か所二七・一ha、事業費二億七、五〇〇万円

造成事業一・〇ha、一億五、〇〇〇万円、一般農道整備三路線九、八一八万円等の県営事業を、単営土地改良事業は、一七地区四、五七二万円の予定で推進を致します。また、都市に比べ、遅れの目立つ農村の環境整備も重要であり、モデル事業による集落道四路線五、〇〇〇万円を始め、本年度から着手の農村集落排水事業としての新田永野地区に二、五〇〇万円を投じて、農村の環境基盤の整備を図っていくものです。

一方、農村の兼業化や混住化が進む中、活力豊かな定住条件



圃場整備事業

や、その体質の強化を進めるため、農業振興地域整備計画や、新地域農業生産総合振興計画等を基盤として進めていかなければなりません。新規として、地域農業集団育成事業三七八万円、田麦生産団地育成事業一〇〇万円、家畜糞尿処理対策事業一六五万円等がありますが、昨年に引き続き、農業構造改善対策事業一、六〇一万円、水田利用再編対策事業一、一五〇万円、転作促進対策事業七〇三万円、若

また、市町村における労働行政は、勤労青少年の雇用安定と、定住化への福祉策が専らであり、労働費予算は四、〇四二万円、前年比二七・六%の増額とし、勤労者住宅資金の預託金一、六〇〇万円等が主であります。また、商工費においては、総額では〇・九%増の六、〇二二万円であり、商工業振興資金は二、八〇〇万円を預託するとともに、駅前商店街の再開発に積極的に取り組み、町内購買運動にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

さらに企業については、在来の工場団地とも概ね順調で、さらに日本電装の工場も年々拡充されておりますが、さらに活力ある幸田町の基盤と町財政の確立のため、県企業庁と一体となり進めております第三工業団地、即ち幸田中部工業団地について、関係土地権利者の御理解と御協力をいただき、一日も早く用地取得、土地造成、優良企業の進出立地について、全力を挙げて推進していきたいと決意しております。これらの企業が地域と十分な連帯感を持ち、町民の雇用の安定拡大と町民生活の向上に寄与されることを念願するものであります。

新しい計画的なまちづくり

区画整理、街路、

下水路の整備

第六は、新しい計画的なまちづくりの施策であります。今さら申し上げるまでもなく、昨今の財政事情の厳しい折、特にその計画性が必要であり、また先に述べたとおり、木町は都市化への転換期にもあることから、将来の投資効果、市民の真に求める幸田町を築き上げるためには、一層の計画的なまちづくりを推進していかねばなりません。

昭和五十二年三月に現総合計画を改めて七年が経過致し、社会情勢、行政需要も変わつていふと思われまますので、二十世紀を展望した行政目標として、第三次総合計画を策定してまいりたいと思ひます。

都市計画の実現は、適正な制限と、土地利用の合理性、加えて社会ニーズに対応した都市施設を効率的に運用することであり、まさに「都市計画の母」とも呼ばれる土地区画整理事業が、幸い、里前、三ヶ根南、幸田駅西の三地区に続き、芦谷仲田地



幸田駅前商店街

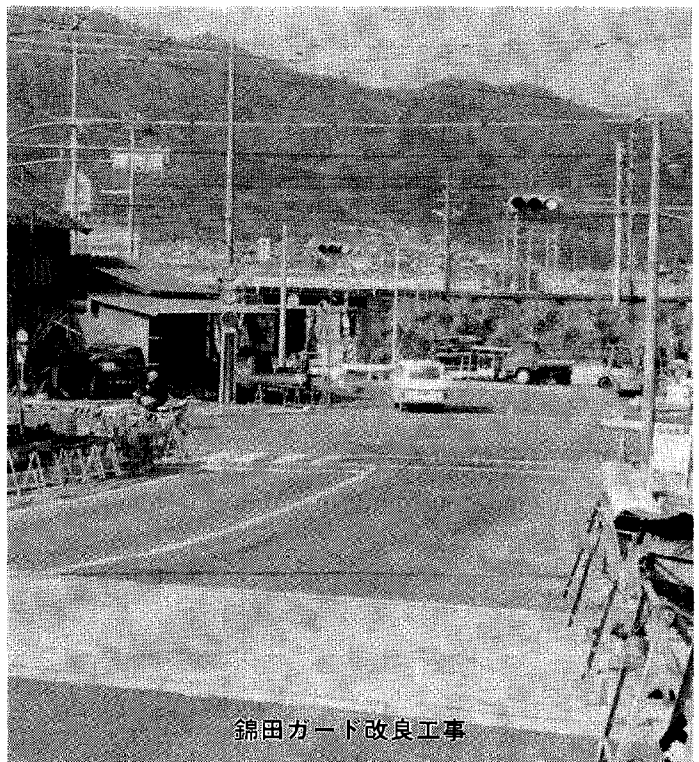
区も組合設立が確実となつており、また、幸田駅前再開発にあつても、昨年度組別懇談会を重ね、前向きに推進していただける方向となつてまいりました。

これら都市としての抜本的整備のため七、〇一六万円を計上し、さらに機能的な都市交通のために、街路、区画路の整備費として広野山添、幸田萩線の継続、市街化区域内生活道路整備を含め八、一四二万円を計上し、計画的な行政の象徴ともいえる都市計画を重点施策として、ローマは一日にしてはなりません。計画的に根気強く取り組んで、住みよい新しい町づくりを進めていきたいと思ひます。

広域行政の推進

広田川の改修、名豊

衣浦蒲郡線、流域下水道整備の促進



錦田ガード改良工事

第七は、広域行政の推進であります。

本年一月五日、一応の決定をみた新幹線三河駅の問題については、県の決定を謙虚に受けとめるものでありますが、一方、現在計画されている町の主要事業の推進とともに、広域的な行政、また誘致に、県管理河川、

道路の改修、さらに県施設等の誘致に全力を挙げるべく決意を新たにしているところであります。即ち、広田川の改修、国営矢作農水事業、矢作川流域公下水道、衣浦蒲郡線、名豊道路等、一市一町では解決できない大きな問題ばかりでありますので、関係する市町村とともに強力に推進を図つてまいりたいと考えております。また、他の国県道、河川改修、改良は、市民の生活、児童の通学通園等、生活に直結した緊急の願望であり、特に蒲郡競艇等による二四八号線、三ヶ根駅前、名豊、錦田ガード、坂崎柳川は急務でありますので、関係地区の理解と協力のもと、議会と一体となつて、精神的に関係機関に働きかけ、整備促進に努力する所存であります。

衛生組合等の一部事務組合についても、さらに関係団体と協調し、効率的な運営を期し、単独による過大投資を抑制していきたいと考えておりますが、本年度から蒲郡市幸田町衛生組合の清幸園衛生処理場改築工事が予定されておりますので、関係地区の御理解御協力を特にお願ひするものであります。

合併30周年を記念して

議会史、庁舎建設



現庁舎(昭和26年建築)

第八に合併三十周年を記念して新庁舎の建設に着手したいと思います。

昭和二十九年八月一日に旧町

村である豊坂村と幸田町が合併し、新幸田町が誕生して三十周年を迎えます。私もその誕生から現在に至るまで、町職員から奉職致し、過去三十年を振り返るとき、今さらながらその感慨も深いものがあります。三十年の総集編ともいえる議会史が今夏まとまる運びとなり、昭和五十五年度以来約二、八七七万円を費し、本年度は一、〇〇〇部を作成するまでの経費一、四一、二万円を計上しているところ

であります。さらに町としては記念式典、記念要覧、各種行事等として総額一、二七三万円を予定し、また従来の幸田まつり等の諸行事等も、諸団体等の協賛により花を添え、全町民こぞって町の発展をたたえるところに、これからの住みよい町づくりの決意に役立つよう企画いたします所存であります。

次に庁舎の建設であります。六十年度を目途に完成を目指し、建設に要する経費として九億五、八七七万円と、総事業費の概ね

六〇%を本年計上しました。現庁舎は県内では最も古く、また狭くなって来ており、その建設気運もすでに熟し、内容について昨年度は慎重に検討し、実施設計を進めておりますので、町民生活の中心として、町民に親しまれ、愛着と誇りのもてる幸田町のシンボルとして過去の歴史をきざみながら、新庁舎の建設を致したいと思っておりますので、町民の皆さんの格別の御理解と御協力をお願いするものであります。



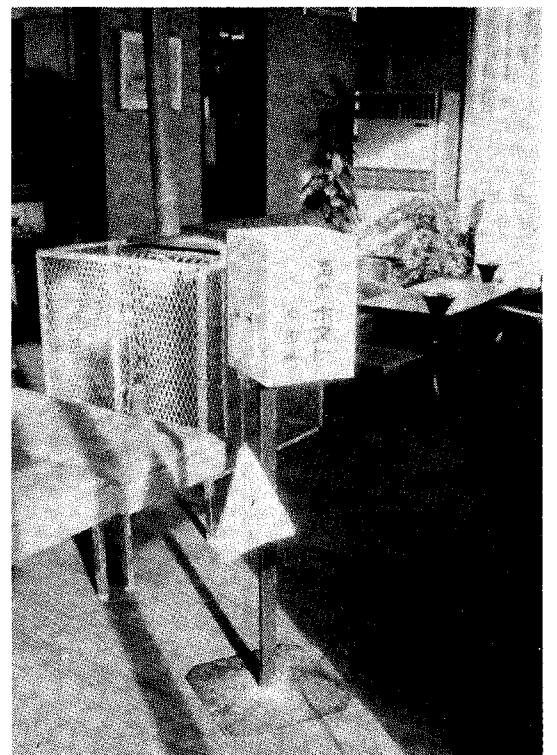
町政モニター会議

結び

対話を深め

心のふれあう町政を

あなたの意見を町政に



以上昭和五十九年度予算の大要と施政の方針について述べましたが、合併三十周年を迎えたわが幸田町は、やらなければならぬ事業が山積しており、現場整備、区画整理等何れも緒に付いたばかりという状況であります。

今後、議会の皆さんと意見調整を進め、又町民との対話を深め計画実行してまいる所存であります。心の通った暖い行政を職員とともに心掛けるとともに

他市町村における不祥事件を他山の石として、私を始めとして全職員の綱紀を肅正し、公務員としての倫理にもどるようなことのないよう自省自戒しながら、職員の英知を結集し、責任と信頼、活気ある職場のもと一丸となつて全力を挙げてテーマの「活力ある住みよいふるさと幸田」の建設にまい進する所存であります。どうか議会並びに町民のみなさんの一層の御支援御協力を心からお願ひ申し上げます。